

評価対象年度	平成 28 年度
1次評価日（主幹等）	29 年 月 日
2次評価日（課長等）	29 年 月 日

事務事業評価表（公共施設）

1 事業名	「第4次総合計画」に沿って整理した事務事業名		
2 担当部課	評価表の所属・作成者		
3 事業概要	目的体系	基本目標	「第4次総合計画」に沿って整理した体系
		政策	
		予算科目	業務委託
		実施義務	国県補助
	設置条例		

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
施設の概要（簡潔に）	この施設の受益者（事業により便益を受ける人）のために、どのような状態にしたいのか	
目的		
対象者 意図		

5 施設の管理運営状況		28年度指定管理料	円
施設における通常業務	この施設の主な業務内容		
事業の実施内容	(28年度に施設で行った運営事業・自主事業など) この施設の設置目的（項目4）を達成するために、市が行った具体的な取組内容		
前年度の課題への対応	前年度の事務事業評価における課題に対する取組内容		

6 施設の利用状況	*①は貸館施設のみ対象（ただし年間開設日数は入力） *②・③はどちらかの欄に記入 *			
区分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 施設稼働率	① 施設稼働率 $\text{年間利用実績（時間）} \div \text{年間利用可能時間（時間）} \times 100$			
年間開設日数（日）				
1日の開設時間（時間）				
年間利用可能時間（時間）				
年間利用実績（時間）				
② 年間利用者数（人）	② 年間利用者数 ③ 年間利用件数 ②か③のどちらかを記入 ④ 1日あたり利用者数、件数 $\text{年間利用者数（人）} \div \text{年間開設日数（日）}$ または $\text{年間利用件数（件）} \div \text{年間開設日数（日）}$			
有料利用者数				
無料利用者数				
減免措置者数				
③ 年間利用件数（件）				
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数				
⑤ 施設利用状況の説明				

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	26年度	27年度	28年度	29年度(予算)	
① 直接事業費	① 直接事業費 平成26年度～平成28年度：決算額 平成29年度：予算額（当初予算）				0
経常経費					0
臨時的経費					0
* 臨時的経費の説明					
② 人件費	② 人件費 正規職員の給与費、法定福利費、退職給与引当金相当額等を含め、 便宜的に、正規職員1人あたり年間800万円として算出				0
正規職員の人数（人）					
③ 合計コスト（①+②）	④ 年間使用料収入額 施設の使用料として実際に収入があった金額 ⑤ 年間減免措置額 施設の使用料のうち、減免した金額 ⑥ 受益者負担割合 施設の維持管理費用のうち、利用者が使用料として負担する割合 $\text{（年間使用料収入額 + 年間減免措置額（④+⑤））} \div \text{直接事業費（①）} \times 100$ ⑦ 活動一単位あたりのコスト 利用者1人または利用1件あたりにかかった費用				0
前年度比					0
財源内訳					
一般財源					
特定財源					
* 特定財源の説明					
④ 施設使用料年間収入額					
⑤ 年間減免措置額					
⑥ 受益者負担割合					
⑦ 活動一単位あたりコスト					
前年度比					
⑧ コストに関する補足説明					

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

低い

評価項目	評価	
	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。		
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。		
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。		
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。		
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。		

各項目で、はい=1
いいえ=0とし、
合計 5点=高い、
合計 3～4点=標準
合計 0～2点=低い

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6/住民の満足度）は向上しているか。

有効性

#DIV/0!

評価項目	評価	
	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。		
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。		
④ 施設の利用者が増加した。	1日あたり利用者数、件数	前年度比 #DIV/0!
⑤ 施設使用料収入が増加した。	施設使用料年間収入額	前年度比 #DIV/0!

各項目で、はい=1
いいえ=0とし、
合計 5点=高い、
合計 3～4点=標準
合計 0～2点=低い

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること） 事業の成果（項目6、8、9）を高めたり、少ない費用で大きな効果をあげていく上で、問題や障害になっている課題
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） 上記で把握した課題を解決するための具体的な改善と時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	この事業に関する次年度の方針	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	事業の優先度
13 大規模修繕の予定			
内容	予定事業費	円	予定時期
平成29年度以降に、通常の経費以外に必要な投資・大規模修繕の予定			